

明日をひらく、
多様な言論の広場

WEBRONZA



統計不正から浮かぶ 政権の病理



政府統計の不正が大問題になっています。統計は国家の実態を測る基礎データであり、政策立案の根拠や国内総生産（GDP）の算出にも使われるだけに深刻です。

立憲民主党会派の衆院議員の小川淳也さん＝写真＝は「統計不正を国会で糺す！本丸は『GDP』だ！」（6日）、「統計不正を国会で糺す！公文書改竄を忘れるな！」（13日）で、不正の背後に見え隠れする政治の圧力、官僚の変質、それに伴う問題点について、自らの国会質疑を踏まえ熱くつづっています。

長年、世論調査にかかわってきた筆者は、手法のわずかな変更で調査結果がどれだけ変わるか、骨身にしみています。毎月勤労統計の経緯を聞くにつけ、統計のプロのはずの官僚がなぜ、こんなに雑な調査をしてきたのか、暗然たる気持ちです。

統計だけでなく、公文書偽造や裁量労働データの捏造など、数字や言葉にドレッシングをかけて真実を隠し、粉飾するのが今の政権の体質、と小川さん。統計不正から浮かぶこうした病理を、見過ごしてはいけません。と思います。（編集長 吉田貴文）

<http://t.asahi.com/v4j1>

<http://t.asahi.com/v4j3>

2019年2月19日 朝日新聞